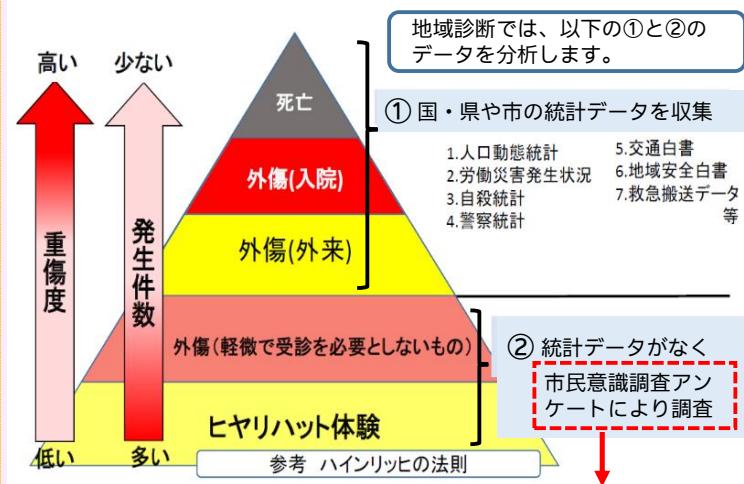


【地域診断について】

地域診断は、郡山市におけるけがや事故の状況を明らかにするため、平成26(2014)年度から隔年で実施している。これまでに収集した統計データを更新するとともに、新たに6分野の対策委員会から提示された必要なデータのアンケート調査結果等を追加する。



- 調査の時期
令和6(2024)年7月12日(金)～8月16日(金)
- 調査の対象
 - 郡山市に在住する満18歳以上の者
 - 住民基本台帳からの年代、地域を考慮した無作為抽出
 - 標本数 4,000人
- アンケート回収数、回収率
1,648件 41.2%

けがや事故が占める割合

郡山市では、死亡原因割合をみると、9割以上が病気等による死亡である。



「人口動態統計」(厚生労働省)を加工して作成

一方、救急搬送データによると年間1万件以上の救急搬送が発生しており、その約4分の1が、けがや事故によるものとなっている。けがや事故の原因を分析して対策を実施するセーフコミュニティ活動により、その予防につながる。



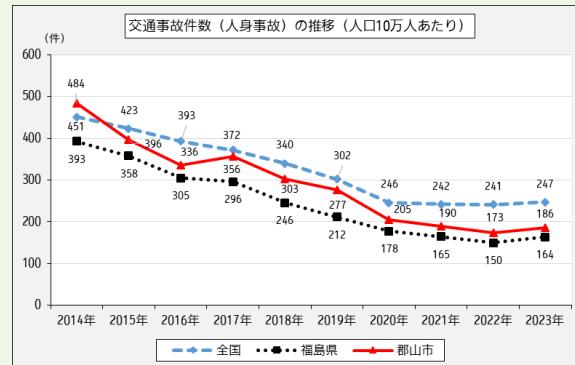
「救急搬送データ(国表)」(郡山地方広域消防組合)を加工して作成

けがや事故について

交通安全分野 【重点課題】 高校生の自転車事故が多い。高齢者の事故は重傷になりやすい。交差点での事故が多い。

交通事故件数の推移(人口10万人あたり)

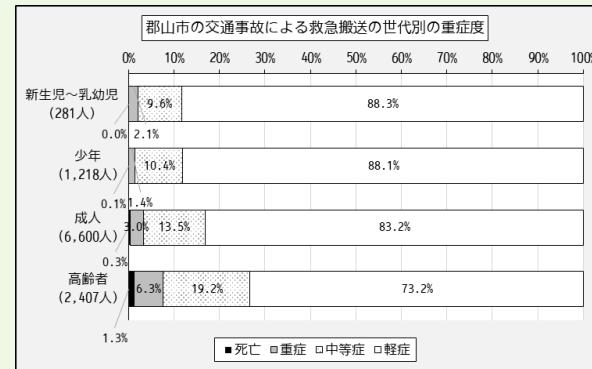
全体的に減少していたが、2023年はわずかに増加した。郡山市は、2015年以降全国より下回っているが、県を上回った状態が続いている。



警察白書(警察庁)、「交通白書」(福島県警察本部)を加工して作成

交通事故による救急搬送の世代別重症度

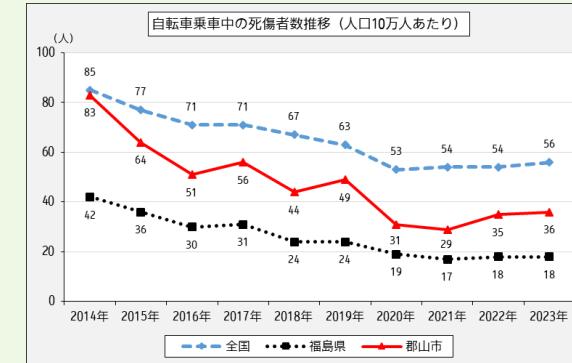
高齢者の重症度率は、「死亡」と「重症」を合わせると7.6%であり、成人の3.3%と比べると倍以上となっている。



「救急搬送データ(国表)」(郡山地方広域消防組合)を加工して作成

自転車乗車中の死傷者数推移(人口10万人あたり)

郡山市は、2021年まで減少していたが、2022年から増加した。全国を下回っているが、県を上回った状態が続いている。

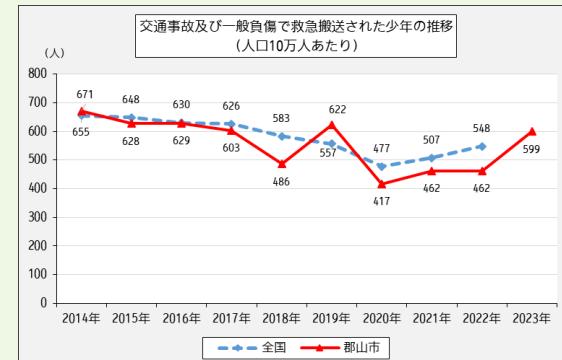


「警察白書」(警察庁)、「交通白書」(福島県警察本部)を加工して作成

こどもの安全分野 【重点課題】 小学生～高校生の交通事故が多い。子ども(0～17歳)に対する虐待がなくなる。乳幼児(0～6歳)のけがは、自宅及びその周辺と幼稚園、保育所が多い。

交通事故及び一般負傷で救急搬送された少年(7歳から17歳まで)の推移(人口10万人あたり)

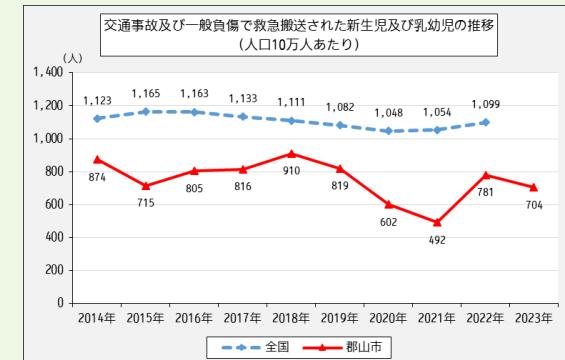
郡山市は、2020年以降全国を下回っていたが、2023年は増加した。けがや事故の種別は、「交通事故」48.3%、「運動競技」24.8%、「一般負傷」23.9%となっており、発生場所は、「道路」48.3%、「公衆」41.3%となっている。(地域診断13ページ)



「消防白書」(総務省消防庁)、「救急搬送データ(国表)」(郡山地方広域消防組合)を加工して作成

交通事故及び一般負傷で救急搬送された新生児～乳幼児(0歳から6歳まで)の推移(人口10万人あたり)

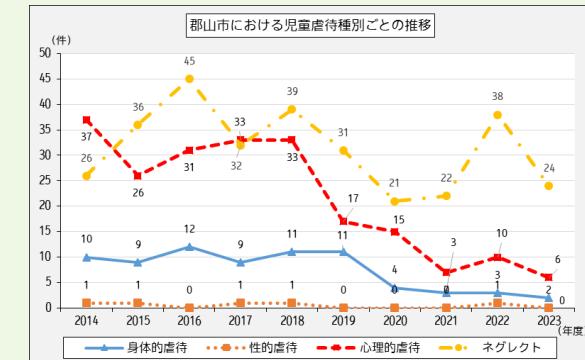
郡山市は増加や減少を繰り返す状況が続いているが、全国を下回っている。けがや事故の種別は、「一般負傷」78.7%、「交通事故」20.4%となっており、発生場所は、「住宅」58.1%、「道路」20.8%、「公衆」20.0%となっている。(地域診断13ページ)



「消防白書」(総務省消防庁)、「救急搬送データ(国表)」(郡山地方広域消防組合)を加工して作成

郡山市の児童虐待種別の推移

「心理的虐待」と「ネグレクト」が常に多い状態で推移している。

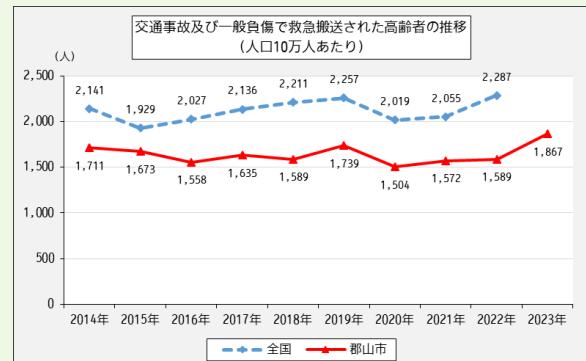


「相談等の取扱件数推移(相談案件数)」(郡山市子ども家庭課)を加工して作成

高齢者の安全分野 【重点課題】 高齢者の転倒が多い。高齢者の不慮の窒息が多い。認知症の方の増加が見込まれる。高齢者虐待が生じている。

交通事故及び一般負傷で救急搬送された高齢者(65歳以上)の推移(10万人あたり)

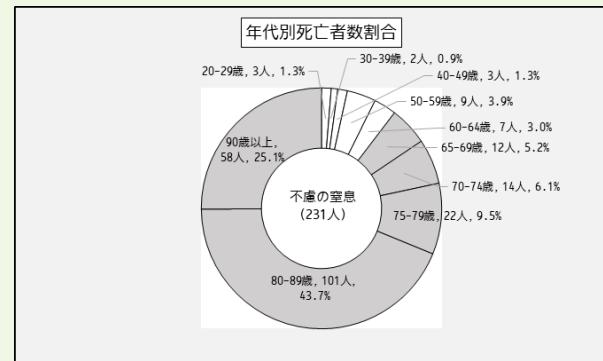
郡山市は、全国を下回り、2022年までは横ばいで推移していたが、2023年は増加した。



「消防白書」(総務省消防庁)、「救急搬送データ(国表)」(郡山地方広域消防組合)を加工して作成

窒息による年代別死者数の割合(2014年～2022年累計 231人)

窒息による死者の年代別割合は、65歳以上が約9割を占める。



「人口動態統計」(厚生労働省)を加工して作成

高齢者の権利擁護における相談件数推移

「高齢者虐待」は2016年度に増加し、それ以降は横ばいで推移していたが、2020年度以降増加している。



「センター別包括的支援事業の実施状況」(郡山市地域包括ケア推進課)を加工して作成

救急搬送の状況 (病気を除く)

救急搬送の状況を見ると、郡山市では、「一般負傷」と「交通事故」が全体の約9割を占める。(地域診断7ページ)
乳幼児と高齢者は、「一般負傷」が最も多く、少年と成人は「交通事故」が最も多い。

救急搬送要因の年代別順位 (2014~2023年累計)					
	1位	2位	3位	4位	5位
新生児~乳幼児 (0~6歳まで)	一般負傷 1,084人	交通事故 281人	加害 8人	運動競技水難 2人	
少年 (7~17歳まで)	交通事故 1,218人	運動競技 624人	一般負傷 602人	自損行為 53人	加害 13人
成人 (18~64歳まで)	交通事故 6,600人	一般負傷 3,641人	自損行為 877人	労働災害 826人	加害 392人
高齢者 (65歳以上)	一般負傷 10,941人	交通事故 2,407人	自損行為 168人	労働災害 152人	加害 67人
全年齢	一般負傷 16,268人	交通事故 10,506人	自損行為 1,098人	労働災害 980人	運動競技 914人

「救急搬送データ(国表) (郡山地方広域消防組合)を加工して作成

死因について (病気を除く)

死亡原因を見ると、郡山市では、「自殺」が最も多く、次いで「不慮の窒息」、「転倒・転落」となっている。(※「その他の外因」「その他の不慮の事故」を除く)
10歳代から70歳代までは「自殺」が最も多く、80歳代は「不慮の窒息」、90歳以上は「不慮の窒息」及び「転倒・転落」が最も多い。

死因の年代別順位 (2014~2022年累計)					
年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
10-19歳	自殺 18人	交通事故 5人			
20-29歳	自殺 53人	交通事故 7人			
30-39歳	自殺 73人	交通事故 4人			
40-49歳	自殺 92人	交通事故 16人	転倒・転落 4人		
50-59歳	自殺 91人	交通事故 17人	転倒・転落 9人	煙・火・火災 7人	
60-69歳	自殺 69人	交通事故 20人	窒息 19人	転倒・転落 17人	煙・火・火災 9人
70-79歳	自殺 64人	窒息 36人	転倒・転落 30人	交通事故 22人	煙・火・火災 8人
80-89歳	窒息 101人	転倒・転落 76人	溺死・溺水 57人	自殺 45人	交通事故 17人
90歳以上	転倒・転落 58人	溺死・溺水 11人	自殺 7人	煙・火・火災 4人	
全年齢	自殺 512人	窒息 231人	転倒・転落 197人	溺死・溺水 127人	交通事故 110人

「人口動態統計」(厚生労働省)を加工して作成

「自殺」は、男性の割合が約7割を占め、20代から60代の男性で全体の5割以上を占める。



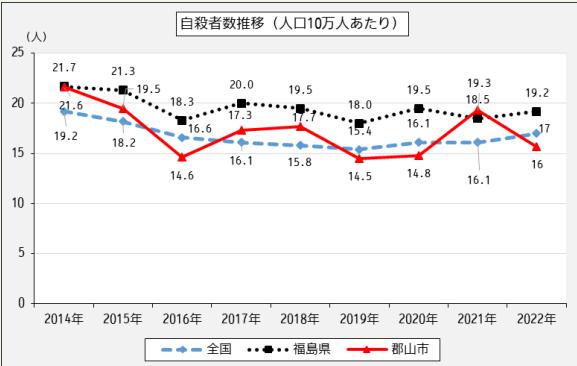
「人口動態統計」(厚生労働省)を加工して作成

けがや事故について

自殺予防分野 【重点課題】 働き盛りの男性の自殺が多い。若者の自殺が減らない。相談窓口が知られていない。

自殺者数推移 (人口10万人あたり)

郡山市は、2014年以降、増減を繰り返している。2021年は全国、県を上回ったが、2022年は再び減少した。



「人口動態統計」(厚生労働省)を加工して作成

郡山市の自損行為による救急搬送者推移

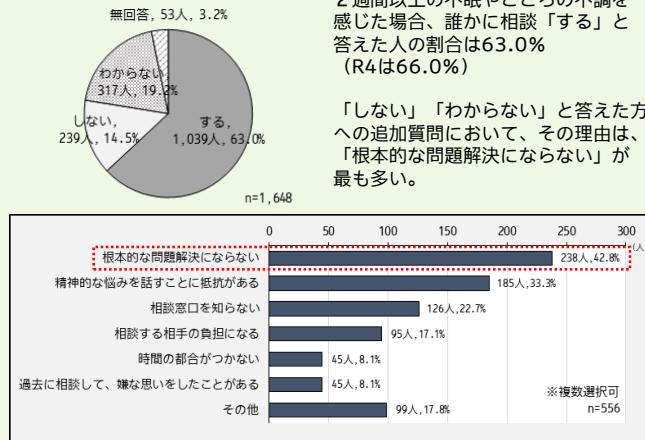
2023年は、成人が7割以上を占めている。救急搬送者数が多い時間は「18~20時」で、曜日は「月曜日」、月は「6月」「4月」「9月」となっている。(地域診断28~29ページ)



「救急搬送データ(国表) (郡山地方広域消防組合)を加工して作成

自殺予防に関する相談

もしあなたが2週間以上の不眠やこころの不調を感じた場合、誰かに相談しますか？

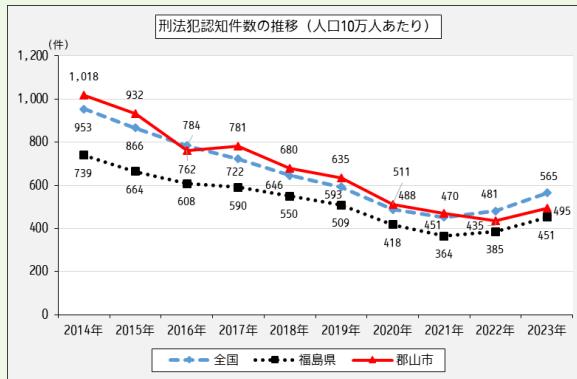


「令和6(2024)年度セーフコミュニティ市民意識調査」(郡山市セーフコミュニティ課)

防犯分野 【重点課題】 駅前の体感治安が悪い。住宅街の犯罪が多い。DVの予防活動、相談窓口が十分に認知されていない。

刑法犯認知件数の推移 (人口10万人あたり)

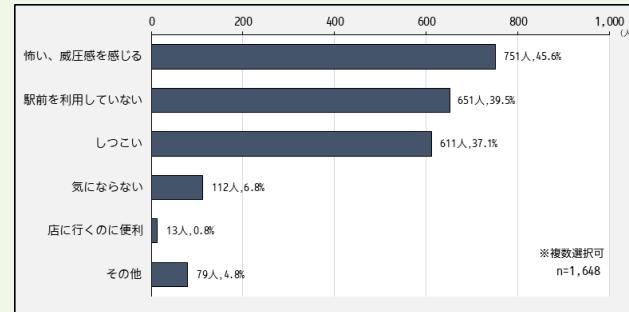
郡山市は、2014年以降減少していたが、2023年は増加した。



「警察白書」(警察庁)、「地域安全白書」(郡山警察署・郡山北警察署)を加工して作成

郡山駅前の違法客引き等への印象

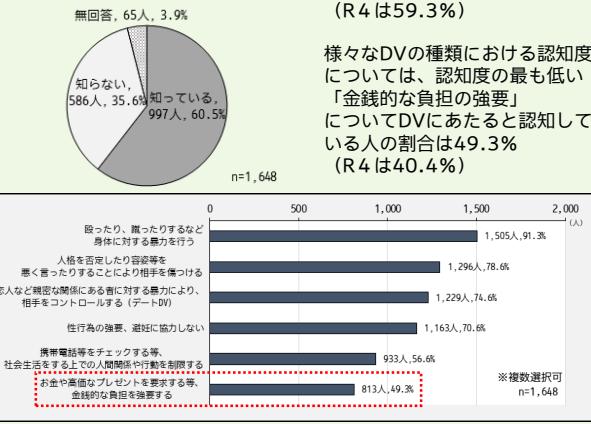
「怖い、威圧感を感じる」が45.6% (R4は37.9%)、「駅前を利用していない」が39.5% (R4は45.6%)、「しつこい」が37.1% (R4は33.4%) となっている。



「令和6(2024)年度セーフコミュニティ市民意識調査」(郡山市セーフコミュニティ課)

DVについて

あなたはDVの相談窓口があることを知っていますか？

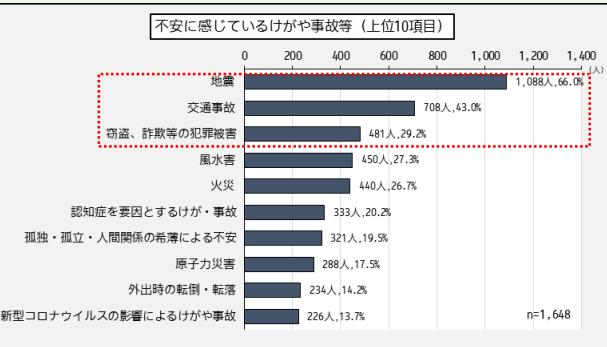


「令和6(2024)年度セーフコミュニティ市民意識調査」(郡山市セーフコミュニティ課)

防災分野 【重点課題】 自然災害等の不安が大きいが、防災意識は低い。地域コミュニティが低下している。労働者の災害が多い(農作業中のけがや事故が多い)。

現在、不安に感じているけがや事故等

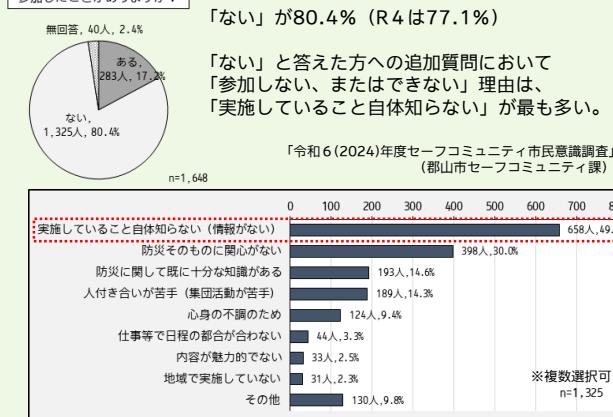
「地震」、「交通事故」、「窃盗、詐欺等の犯罪被害」の順に多い。(R4は、「地震」、「交通事故」、「風水害」の順)



「令和6(2024)年度セーフコミュニティ市民意識調査」(郡山市セーフコミュニティ課)を一部加工して掲載

市内で実施している防災活動への参加

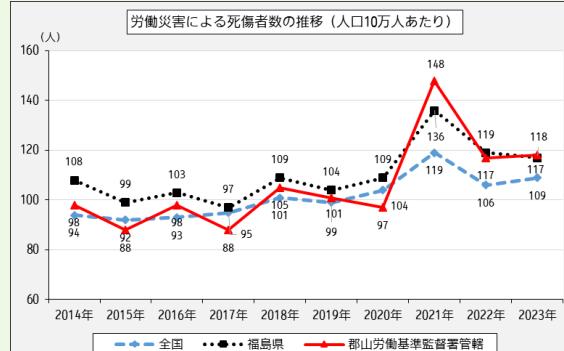
市内で実施している防災活動に参加したことがありますか？



「令和6(2024)年度セーフコミュニティ市民意識調査」(郡山市セーフコミュニティ課)

労働災害による死傷者数推移 (10万人あたり)

郡山労働基準監督署管轄では、増加傾向にあり、2022年以降はコロナウイルス感染症流行前の2019年と比べ増加し、全国を上回っている。



「労働災害発生状況」(厚生労働省労働基準局・福島労働局・郡山労働基準監督署)を加工して作成